

るといわれます(梅村錠二著・「川とともに生きる」参考)。橋上から見た魚の種類はどうも分かりませんが、矢作川が豊かな生態系の源であることを今回も実感しました。

河川敷の砂は、まるで海岸のように細かく、白く輝いていました。それでも、河川敷に広がる野草群は、白や黄色に変化するものが増え、秋の到来を告げていました(②)。

200m近くある渡橋の歩道を歩くと、汗が出るほどでしたが、心休まるひとときになりました。

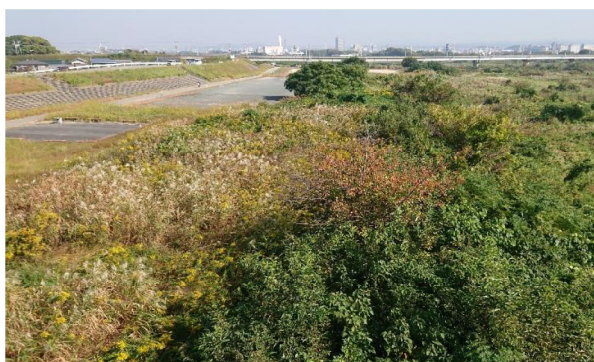
「洪水被害を防ぐ堤防・護岸整備」 続く盛り土の工事

右岸の18.6Km付近では「洪水被害を防ぐ堤防・護岸整備」ということで工事が続いています。案内板の説明と現場の様子から見ると、堤防の内側にさらに盛り土をしていると思われます。

案内掲示板によれば、令和4年から令和6年にかけて行われる工事のようです。2年間近くかけて行われる工事なので、変化を見ていきたいと思



①透明感が際立つ渡橋下の矢作川



②秋の気配も見え始めた河川敷野草群



③堤防内の整備を続ける重機